

(公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム)

## 公民館を拠点にした高齢化社会克服プロジェクト

～地域ぐるみで健康寿命を延ばし、介護保険料を減らそう！～

新居浜市市民部長 関 福生

### 1. 該当地域の現状（新居浜市泉川地区）

当地域は「自分たちの町は自分たちの力で」をスローガンに掲げ、公民館を拠点にした地域づくりに取り組んでいる。環境美化、安全安心、健康づくり、子どもの育ちを支える活動、地域福祉について、住民が主体的に取り組む「泉川まちづくり協議会」を組織し、生涯学習部会が進めている「泉川ふるさと塾」により「学習」と「実践」の循環をめざしている。

### 2. 公民館等を中心とした社会教育活性化支援プロジェクトに取り組んだ経緯

- (1) 地域主導型公民館の方向性を明確にする上で意義がある。(地域課題解決)
- (2) ネットワークの要として、公民館の存在意義を高める。(自前主義から出前主義)
- (3) 地域福祉と社会教育との連携強化を図る。(地域の絆づくり)

地域コミュニティの再生と公民館の復権を目指す最高のきっかけになる！

### 3. プロジェクトで解決すべき地域課題は何か。

- ① 拡大する介護保険料、要介護者にどう歯止めをかけるか。  
10年前と比較すると本市の介護を必要とする高齢者の数は1.5倍に拡大し、国民健康保険を活用した医療費も年間26万円から36万円に増加しており右肩上がりである。
- ② 地域福祉を推進する団体、機関のネットワークをどう構築するか。  
既存の福祉関連組織（社会福祉協議会・民生児童委員等）、コミュニティ組織（自治会）介護福祉施設、行政の連携が不十分である。

### 4. プロジェクトの具体的実施内容及び実施方法

当プログラムは3か年継続事業を予定、地域の現状把握、分析を行い、取り組むべき課題を明確化、推進のためのネットワーク組織を形成し、公民館は関連機関と地域住民をつなぐ役割を担う。また、先進事例のエッセンスを学び、学習の場を設け住民の意識変容を図り、実践活動への参加参画を促す。特に、当事業では大学（慶應義塾大学）との連携協力体制を結ぶ。大学のない新居浜市にとっては、今回の協働が大きな刺激になる。

(具体的な実施内容)

- (1) 地域の高齢者（予備軍を含む）を対象にしたアンケート調査を実施する。
- (2) アンケート結果をもとにしたワークショップを実施する。
- (3) 先進的な事例から学ぶ。「井の中の蛙からの脱却」「良いことを模倣する」
- (4) 仮説を検証するためのモデル事業の実施

- ① 幸せな高齢期を送るための講座「いきいき年輪塾」の開設
  - ② 自治会館での生きがづくり（サテライト）集会の実施  
→ 月に一度集まることで安否確認ができ、非常時の支援に関する情報収集も可能に
  - ③ 傾聴ボランティア養成講座の開設
  - ④ 子どもと高齢者の接点づくり事業（学校支援地域本部との連携）
  - ⑤ Ex ウォーク（健康歩け歩け活動）を普及し、地域全体で介護予防事業を推進  
国道バイパス等を“元気の出る道”に指定し、“一日一万歩運動”を展開する。
- (5) 年間活動終了後の住民への啓発・情報の周知
- ① 活動報告会の実施 … まちづくりの意識を啓発する機会
  - ② 年間活動レポートを全住民に情報提供する。地域総ぐるみの取組みをめざす。

## 5. 支援プログラムの実施により得られることが見込まれる成果・効果

- (1) 地域みんなで高齢者を支えていく風土が醸成されること
- (2) 民生費（介護保険料・国民健康保険医療費）の節約につながる。
- (3) 縦割り行政の弊害が是正され、関係機関、団体の連携が促進される。
- (4) 連携調整、熟議の拠点として、公民館の必要性が高まる。

## 6. 支援プログラムの評価 エビデンスを明らかにすることが重要と再認識

- (1) 学習成果が実践活動に結びつき、具体的なまちづくりの新展開が生まれたか。
- (2) これまで事業に参加していなかった人材が新たに関与したか。（企画立案者も）
- (3) 住民意識・特に高齢者の健康管理意識が変容し、従来の行動様式が変化したか。
- (4) 最終的には、行政コスト（民生費）の削減に功を奏したか数値で検証する。

(成果指標)

- (1) アンケート結果にみられる高齢者意識の変容を明らかにする。
- (2) 傾聴ボランティア養成講座を修了し、高齢者との傾聴活動に取り組む人材 15名
- (3) 老人会の加入者数の増大（当事業の副産物として、活動する高齢者が増える）
- (4) 公民館利用者の増大 籠城意識ではなく、野戦重視で事業展開したい。

サテライトとしての自治会館利用も含め、現在の年間8万人→10万人を目指す。

- (5) 介護保険・国民健康保険の利用料の減額 10%を最終目標に

## 7. 今後の取組み

- 1. 高齢者にとって幸せな老後を送る上で、重要となる因子を見極める作業を行う。  
想定されるテーマは、①人間関係、②体力づくり ③医療 ④介護サービス ⑤安全等
- 2. 国道バイパス“元気の出る道”を活かした健康づくりプログラムの開発
- 3. 高齢者が幸福に年を重ね、生命を全うできる地域福祉のネットワーク組織をつくる。

10年先の公民館はどうなっているだろう。 存在意義は向上？それとも低下か？

当事業はそのターニングポイント！ 新しい全国の公民館ネットワークの構築こそ急務